

柿 9 月出荷の平準化にむけて

要約

柿の市場価格の安定するためには9月までの出荷量を増やし平準化していくことが必要である。そうした中、刀根早生の優良系統の改植等進めるためとともに、大苗育苗組織を支援し早期成園化を図る。

現状(背景)と課題

・労働を平準化するため収穫時期を分散させることが効果的なことやカキの価格安定のため9月までの出荷量を増やすことを求められており、各種技術を実施し早期出荷対策を行っている。こうした中、刀根早生より早期に収穫できる優良系統(品種、以下「優良系統」いう)が発見されたことからその作付拡大を進めている。

優良系統導入面積 8.5ha
(優良系統大苗育苗組織 2 組織)

目標

優良系統導入面積 10.2ha

活動内容

- ・優良系統の大苗増産に向け大苗育苗組織の7組織に対して働きかけを実施。
- ・刀根早生の優良系統の大苗生産に取り組んでいる大苗育苗施設2カ所(あぐりいず、柿大苗育苗グループ)を巡回し技術指導した。
- ・苗で植栽した優良系統と刀根早生に高接ぎした優良系統の収量や果実品質を確認するため、4カ所の実証圃を設置し調査を実施。
- ・実証調査結果をとりまとめ、多くの管内果樹農家にて情報提供を行い、優良系統の導入推進を実施。

成果

平成28年度実績 : 導入面積: 10.2ha

- ・大苗の育苗組織の7組織に対して働きかけを実施し、2組織について継続して生産するとともに内1組織については優良系統の大苗が増産された。(H27年度270本からH28年度420本に増産)
- ・前年度、柿高品質果実安定供給推進事業を活用し、現在、刀根早生の優良系統の大苗生産に取り組んでいる大苗育苗施設2カ所(あぐりいず、柿大苗育苗グループ)を巡回指導した。
- ・4カ所の実証圃を設置し調査し、実証圃調査及びとりまとめ9~10月に収穫調査(収穫時期、階級構成、糖度、硬度)を実施した。
- ・また、実証調査の結果については、管内柿農家多数参加する果樹研究会「冬期大学」において情報提供し、優良系統の導入推進を図ることができた。



9月上旬の刀根早生の優良系統



大苗組織現地巡回



階級調査

普及活動のポイント

平成28年度実績：導入面積：10.2ha

- ・出荷時期の平準化は産地の大きな課題であり、刀根早生優良系統の導入面積拡大については、今後とも継続し実施していく。
- ・多くの生産者に優良系統の良さを紹介するため、実証展示圃の設置やその調査結果をもとにした講習行い、効率的に生産者に情報発信し、その優位性を伝えることができた。

対象の変化

- ・刀根早生から高接ぎして優良系統を導入していこうとする動きが増えてきた。

対象者からのコメント

- ・大苗育苗に関して継続した技術支援が必要である。
- ・現在までの実証調査結果から優良系統が安定して9月までにほぼ収穫が終わり、高接ぎは3~4年でほぼ成園並みの収量がえられることがわかった。

これからの活動ビジョン

- ・各種技術を用いた早期出荷から、手間のかからない刀根早生優良系統の導入面積を増加させることで出荷の平準化を図る。
- ・新たに優良系統の大苗育苗圃の設置や増産のための組織や農家への啓発や、大苗の安定生産のため大苗育苗組織や農家に対しての栽培技術指導については継続し実施する。
- ・大苗育苗において、省力施肥技術の実証を行い、その増産に役立てる。
- ・刀根早生の優良系統導入を促進させていくため、啓発チラシの作成を行う。
- ・実証調査については継続し、その結果については栽培講習会などを通して、多くの柿農家に情報提供を行い、刀根早生の優良系統の導入推進を図る。

活動体制

